

コラム

千葉県八街少年院を見学して

小林寿太郎

処遇上の5つの重点

八街少年院は、山林や畑が広がる田園地帯にある。建物は刑務所のような威圧的な雰囲気ではなく、学校という印象で、未成年者への配慮が感じられた。施設見学を前に会議室で院長から以下のような説明があった。

八街少年院は、落花生や生姜を栽培する畑作地帯にあるため、春先には一寸先も見えないぐらいの砂塵に見舞われてしまう。また辺鄙な場所でバス路線もない。そういう中で、非行を犯した少年の更生に努力している。非行の内容は、盗み26%、傷害19%、詐欺15%、強盗15%、恐喝9%、薬物4%などである。当少年院の定員は150名だが、入所者は63名で、近年は減少傾向になっている。未成年の数が減少していることと、それ以上に犯罪率が減少していることが原因である。

当少年院の処遇は以下の①～⑤を重点としている。

- ①自己統制力を高め、堅実に生活できるようにする。被害者の立場を取り入れた教育をしている。
- ②勤労意欲を高め、職業知識、技能を習得するため、陶芸、木工、溶接、園芸などの実習をおこなっている。
- ③健全な心身とするため剣道に力を入れている。千葉県警佐倉警察署の警官との間で剣道の対抗試合を開いている。
- ④ヒューマン財団と協力して、動物介在活動プログラム(GMaC)を取り入れ犬の訓練と世話を行なっている。
- ⑤高校復学や大学などへの進学希望者が増えているので学科についても力を入れている。

以上のような説明を受けて施設見学となった。

施設は、教室や給食室の配置や渡り廊下などが中学校や高校を連想させたが、すべての出入り口は施錠できるようになっており、やはり少年院であることを実感する。体育館では鋭い掛け声を出しながら剣道の練習をしていた。

中庭では少年たちがランニングや腕立て伏せをしていたが、私たち見学者に「こんにちは」と声をかけていた。

アフリカ系と思われる少年もいたので案内の次長に尋ねると、外国人は3名いるとのことだった。

千葉県は9月に台風15号による大きな被害があり、少年院周辺でもいたるところに倒木や壊れた家屋が見られたが、この辺りも停電と断水が長引いたという。少年院には自家発電機などがあり、電気・水道ともに正常だったので、周辺住民に給水や入浴場を提供したという。

見学後の感想から

見学後、最寄り駅の喫茶店で見学者同士で感想を述べあったが、そのなかで「少年院の施設には至るところに施錠してあり違和感があった。もっと少年たちを信頼できないのか」という意見があった。私はそれについて15年前に経験したある事件のため強い「違和感」を覚えた

15年前の夏、私は出勤のため埼京線の電車に乗っていたが、池袋駅から人相の悪い2人の男が乗って来て、いきなり車内にいた70ぐらいの老人を激しく殴り始めた。私は驚いてすぐに2人を取り押さえたが、今度は私を激しく殴り、私は血だらけになりながらも二人をつかまえたまま板橋駅で降りた。

後日、謝罪の手紙が届いたが、学力は最低で文章は小学校2～3年レベルだった。私の怪我はともかく、最初に殴られた老人は私が止めなければ殺されたかもしれない。そういう凶暴な犯罪者を収容する施設で「施錠する必要はあるのか」という意見は、犯罪被害者の気持ちや公共の福祉を無視する暴論であると感じた。

しかしどの程度の処遇が適正であるか、それを決めることは困難であることも事実だ。国民がこれらの問題について公権力におまかせするのではなく、関心と知識を持つことが大切であると思う。